
Entrance Hall


Corridor(1F)

Life & Art

アートのもてなし

静謐なるギャラリー空間を創出する「内廊下設計」の採用。アート監修・等 徹彦氏が語る、住まいにおけるアートとは。

土地の記憶を紐解き、イメージを膨らませていく。

豊潤な歴史が薫る、この地の記憶。それを紐解くことからアートの制作は始まりました。「三田」という地名の由来はいくつかありますが、その一つに、かつて朝廷に米穀を献上するための屯田（みた）であったという説があります。さらに現在の三田四丁目の一角は江戸の頃、徳川家康に「月の岬」と称された風光明媚な場所であったとも。その光景は浮世絵師・歌川広重の創作意欲をも刺激し、代表作「名所江戸百景」の一作、「月の岬」として描いた程でした。

住まいにおけるアートの様々な役割を具現化。

住まいにおけるアートは、深い安らぎを紡ぐための装置であり、同時に居住者やゲストに対する「おもてなしの精神」の表れだと思います。特に住まう方にとっては、無意識に心地好さを演出するものでありたい。時を経ても古びない、経年変化を愉しめることも重要ですね。〈ファインレジデンス三田〉のコンセプトは「プライベートギャラリー・レジデンス」。内部はホテルライクな内廊下設計になっていますから、そこに飾るアートは個性的なだけでなく風格も備えていなければならないので、そうした思いを作品に込めました。


月の満ち欠けをモチーフにした
エントランスホール・立体ブロンズ作品
［アーティスト：境野 学］


田に張られた澄んだ水をモチーフにした
エントランスホール・レリーフ作品
［アーティスト：桐山 征士］


水田から芽吹き、そして実りゆく稲をモチーフにした
内廊下・レリーフ作品
［アーティスト：桐山 征士］

水と月をモチーフに、味わい深い作品を22点設置。

まず、「屯田（みた）」から「美田」へとイメージを広げ、実りゆく稲を鉄のレリーフで表現しました。1階では田に張られた澄んだ水を、階を上がると芽吹きから稲穂へと作品が少しずつ変化していきます。また天空での月の満ち欠けをモチーフに、エントランスホール等のアクセントとなる立体作品を制作。これは「月の岬」から着想を得たもので、素材は時間の経過とともに味わいが深まるブロンズを選びました。住むほどに愛着を増すこの住まいと共に、アートも経年変化を愉しんでいただけると嬉しいですね。

ASSOCIATED ARTS INC.

共用部アートディレクション
ASSOCIATED ARTS INC.
株式会社 アソシエイテッド・アーツ

「アートと環境」をテーマに、インテリア・建築・都市空間におけるアートの企画プロデュース会社。住宅・オフィス・ホテル・教育・医療・スポーツ・文化施設等活動は多岐の分野にわたる。

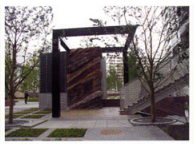
主なプロジェクト

- 富山市芸術文化ホール「オーバードホール」アートワーク
- 北海道立体育センター「きたえーる」サンクンガーデン
- 長崎県営野球場「ビッグNスタジアム」アート計画
- 品川セントラルガーデンフォリー計画
- 大田区文化の森 アートワーク
- 秋田県立大学秋田キャンパス
- 晴海トリトンスクエア ランドスケープ計画
- 京王プラザホテル コンコードボール アートディレクション


代表／アートディレクター
等 徹彦
Tetsuhiko Hitoshi


富山市芸術文化ホール


晴海トリトンスクエア


品川セントラルガーデン


京王プラザホテル コンコードボールルーム

※掲載の完成予想図はプレゼンテーションツールであり、形状・色調・諸設備・植栽計画・照明計画等は実際とは異なります。また、植栽はご入居時の状態・特定の季節を想定しておりません。予めご了承ください。